

目次

最新情報	1
新機能	1
V2.10の追加	1
V2.00の追加	1
V1.30の追加	1
V1.20の追加	2
V1.10の追加	2
V1.02の追加	2
メンテナンス項目	3
V2.11の修正	3
V2.10の修正	3
V2.00の修正	3
V1.30の修正	3
V1.20の修正	3
V1.10の修正	3
V1.02の修正	3
V1.01の修正	4
ファームウェアバージョンの確認	5
ファームウェアアップデート手順	5

最新情報

本機のファームウェアは、常に最新版をお使いいただきますようお願いいたします。最新のファームウェアに関しては、TASCAMのウェブサイト（<http://tascam.jp/>）にてご確認ください。

新機能

V2.10の追加

- SDカードのイレースフォーマットに対応しました。

メモ

“ERASE FORMAT” を実行する事により、書き込み速度が改善することがあります。

V2.00の追加

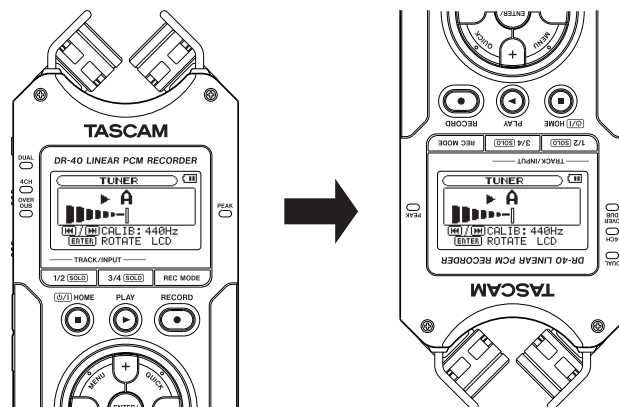
- 128GBまでのSDXCカードが使用できるようになりました。
- マーク位置によるファイル一括分割機能（AUTO DIVIDE機能）を追加しました。
- 外部での動画編集時において便利なオートトーン機能を追加しました。

V1.30の追加

- 欧州待機時電力規制（ErP）対応のため、ACアダプター接続時にもオートパワーセーブ機能が動作するようになりました。初期設定では、オートパワーセーブ機能の設定が30分となっており、無操作状態で30分経過すると自動的に電源がオフ（スタンバイ状態）となります。オートパワーセーブ機能の設定を変更したい場合は、“SYSTEM” メニュー中の “AUTO PWR SAVE” 項目で電源がオフ（スタンバイ状態）になるまでの時間を設定します。詳細は、DR-40の取扱説明書・追補「ファームウェアV1.30の追加機能」をご覧ください。

V1.20の追加

- チューナーが使い易くなりました
“TUNER” 画面中に**ENTER/MARK**ボタンを押すと、画面の上下が反転します。
 内蔵マイクをチューナー使用者に向けた時に、表示が分かりやすくなりました。



V1.10の追加

- **EXT IN**の入力レベルを**Lチャンネル／Rチャンネル**個別に設定できるようになりました。
“REC MODE” 画面中の入力選択（**“SOURCE”** または **“EXT IN”**）を **“EXT INDEP.”** に設定すると、**EXT IN**の入力レベルを**Lチャンネル**と**Rチャンネル**で別々に設定にすることができます。
 ホーム画面表示中に、左サイドパネルの**INPUT LEVEL (+ / -)** ボタンを使って入力レベルを調節します。
 入力レベル設定対象（**L / R**）の切り換えは、以下のボタンを使用します。
 - **“REC MODE”** 項目が **“STEREO”**、**“DUAL”**、**“OVERDUB-SEPARATE”** の場合は、**1/2 [SOLO]** ボタンを使用。
 - **“REC MODE”** 項目が **“4CH”**、**“OVERDUB-MIX”** の場合は、**3/4 [SOLO]** ボタンを使用。

メモ

- **“EFFECT”** 画面の **“SOURCE”** 項目を **“EXT IN”** または **“INT MIC”** に設定し、入力音にエフェクトを掛ける場合、エフェクト音には**Lチャンネル**と**Rチャンネル**の成分が含まれるため、録音結果に反対側のチャンネルの音が混ざります。
- **“REC MODE”** 画面中の入力選択（**“SOURCE”** または **“EXT IN”**）を **“EXT IN 1/2”** に設定すると、**EXT IN**入力レベルは**Lチャンネル／Rチャンネル**で共通となります。

- **“REC MODE”** 項目を **“4CH”** に設定時のディレイ時間を拡張しました。
 最大150msまでのディレイ時間を設定することが可能になりました。
- **“REC MODE”** 項目を **“4CH”** に設定時のディレイ時間を、**Lチャンネル**と**Rチャンネル**で別々に設定することができるようになりました。
 音源から**INT MIC**、音源から**EXT IN Lチャンネル**、音源から**EXT IN Rチャンネル**の各距離に差がある場合、**INT MIC**位置を基準に**EXT IN Lチャンネル**と**EXT IN Rチャンネル**のディレイ時間を設定し、時間差を吸収することができます。
- 入力レベル設定のプルアップ表示を、入力ソースに対応した表示に変更しました。

V1.02の追加

- 4チャンネル録音時の**EXT IN Rチャンネル**ミュート機能
“REC MODE” 画面中の **“REC MODE”** が **“4CH”** に設定されている時、**“EXT IN”** 設定項目により、**EXT IN**の**Rチャンネル**をミュートする機能が追加されました。この機能により、**EXT IN Lチャンネル**の入力のみを使用して内蔵マイク+モノラルマイクの3チャンネルとして使用することができます。
 作成されるファイルは、2つのステレオファイルで**EXT IN Rチャンネル**側がミュートされた状態となります。

注意

“EXT IN” 項目が **“EXT IN 1”** に設定されている場合、録音時にエフェクター機能は働きません。

メモ

モニター状態で**EXT IN**の**Lチャンネル**をセンターに定位させたい場合、録音または録音待機状態で**MIXER**ボタンを押し、**“MIXER”** 画面の3チャンネルの **“PAN”** を **“C”**（センター）に設定してください。

メンテナンス項目

V2.11の修正

- イレースフォーマットを実行すると、まれに書き込み速度が低下して"Write Timeout"エラーが発生することがありましたが、これを修正しました。

V2.10の修正

- フットスイッチ（RC-3F）を“MINUTES”モードで使用し、中央のフットスイッチを短く押した際に先頭に戻る不具合がありましたが、これを修正しました。
- 再生時、ボリュームポップアップ表示が遅くなることがありましたが、これを修正しました。
- 録音中にマークを付けてトラックインクリメントすると“Write Timeout”が発生することがありましたが、これを修正しました。
- デュアル録音の効果が正しく得られるよう、レベル設定の範囲を修正しました
従来は入力レベルが“0”～“24”以下の場合、“DUAL LVL”設定によっては正しくデュアル録音の効果が得られませんが、この範囲を“0”～“12”以下の場合に改善しました。
- 動作の安定度が向上しました。

V2.00の修正

- トラックインクリメント設定を時間単位に変更しました。
- 動作の安定度が向上しました。

V1.30の修正

- 動作の安定度が向上しました。

V1.20の修正

- 本機以外で録音されたMP3ファイルを再生ファイルとして“SEPARATE”モードでオーバーダビングを行い、再生時にジャンプバック、早戻し、早送りなどを行うと、1/2チャンネルと3/4チャンネルの音がずれる件を修正しました。
- VSA再生中に早送り／早戻しを行うと、その後の再生動作で音量が小さくなることもありましたが、これを修正しました。
- チューナーの感度が向上しました。

<Ver1.10以前のF/Wで“SEPARATE”モード オーバーダビングを行ったプロジェクトについて>

- 再生ファイルが本機の設定で録音できるビットレートの場合（32k/64k/96k/128k/192k/256k/320kbps）
Ver1.10以前のF/Wで録音されたプロジェクトの再生時にジャンプバック、早戻し、早送りなどを行ってもずれは生じません。
- 再生ファイルが本機の設定で録音できないビットレートの場合（48k/56k/80k/112k/160k/224kbps）
Ver1.10以前のF/Wで録音されたプロジェクトは、再生時にジャンプバック、早戻し、早送りなどを行うと1/2チャンネルと3/4チャンネルの音にずれが生じます。
Ver1.20以降のF/Wを使用して録音を行ってください。

V1.10の修正

- SDカードの空き容量が4GB以上ある場合にミックスダウンを実行すると、“CARD FULL”のエラーとなりミックスダウンができない症状がありましたが、これを修正しました。
- 動作の安定度が向上しました。

V1.02の修正

- “REC MODE”画面の“REC MODE”項目が“DUAL”かつ“SOURCE”項目が“INT MIC MONO”または“EXT IN 1”に設定されている場合、録音画面内のDUAL側のピーク値デシベル数値が正常に表示されない症状がありましたが、これを修正しました。
- MP3フォーマットで録音されたファイルをI/Oループ再生した場合、正常にI/Oループ再生ができない症状を修正しました。
- 動作の安定度が向上しました。

V1.01の修正

- “REC MODE” 画面の “REC MODE” 項目が “STEREO” もしくは “MONO” に設定された状態で録音を行うと、録音残量表示が少なく表示され、SDカードに残量がある状態で “**Card Full**” 表示となり録音が停止する症状がありましたが、これを修正しました。
- 特定のSDカードで録音中に “**File Error**” が発生することがありましたが、これを修正しました。
- 動作の安定度が向上しました。

ファームウェアバージョンの確認

ファームウェアアップデート作業前に、お手持ちのDR-40のファームウェアバージョンを確認します。

1. 本体の電源を入れてください。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. +ボタンまたは-ボタンを使って“OTHERS”メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押して、“OTHERS”サブメニューを表示します。
4. +ボタンまたは-ボタンを使って“INFORMATION”メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。“INFORMATION”画面の“FILE”ページを表示します。

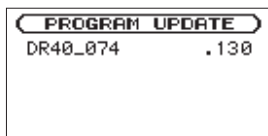
5. +ボタンまたは-ボタンを使って“SYSTEM”ページを表示します。ここで表示される“System Ver.”（ファームウェアバージョン）を確認してください。ここで表示される“System Ver.”が、これからアップデートしようとしているファームウェアバージョンと同じ、または新しい場合はアップデートの必要はありません。

ファームウェアアップデート手順

注意

ファームウェアアップデートは、電池残量が十分にある状態もしくは、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）から電源が供給されている状態か、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で駆動している状態で行ってください。電池の残量が少ない状態では、アップデートは行えない仕様となっています。

1. TASCAMのウェブサイト（<http://tascam.jp/>）より最新のファームウェアをダウンロードします。ダウンロードを行ったファイルがZIP形式等の圧縮ファイルの場合は解凍してください。
2. 本体の電源を入れて、付属のUSBケーブルでパソコンに接続します。本機が外部ドライブ（外部記憶装置）としてパソコンに認識されます。
3. ダウンロードしたファームウェア（V1.30の場合はDR40_074.130）をDR-40内にある《UTILITY》フォルダーにコピーします。
4. コピーが終わったら、パソコンから本機を正しい手順で切り離れた後、本体の電源を切ります。
5. MIXERボタンと◀◀ボタンを同時に押しながら本体の電源を入れます。本体がアップデートモードで起動し、画面にアップデート用ファイルが表示されます。

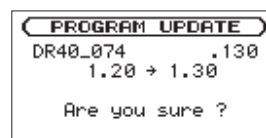


注意

- この画面が表示されない時は、一旦電源を切って、MIXERボタンと◀◀ボタンを同時に押しながら再度電源を入れてください。MIXERボタンと◀◀ボタンは、この画面が表示されるまでしっかり押し続けてください。
- Macから本機の《UTILITY》フォルダーにファームウェアをコピーした場合、ファームウェアのほかにファームウェアの名前の先頭に“.”がついたファイルが表示されることがあります。先頭に“.”のついていないファイルを選択してください。

メモ

- この画面には、本機の《UTILITY》フォルダー内にあるファームウェアアップデート用のファイルがリスト表示されます。上記の3.でコピーされたファームウェアも表示されます。アップデート用のファイルが無い場合は“No Update File”と表示されます。
 - 画面は一例で、実際の表示とは異なります。
6. ファームウェアを+ボタンまたは-ボタンを使って選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押してください。以下の画面が表示されます。



左側に現在のバージョン、右側にアップデートするバージョンナンバーが表示されます。

メモ

画面は表示例で、実際の表示とは異なります。

7. ENTER/MARKボタンを押すと、アップデートを開始します。
8. アップデートが終了すると画面下に“Update Complete”と表示した後、自動的に電源が切れますので、再度電源を入れてください。
9. 「ファームウェアバージョンの確認」を参照して“System Ver.”が最新のファームウェアとなっていることを確認してください。以上で本機のアップデート作業は終了です。
10. USBでパソコンと接続して本機の《UTILITY》フォルダー内にあるファームウェアアップデート用ファイルを削除してください。